

産業保安に関する行動計画進捗状況

2014年3月20日
石油化学工業協会

石油化学工業協会では業界団体としての産業事故の防止に向けた行動計画を定め、2013年7月18日に経済産業省に報告するとともに、同22日に公表した。

本行動計画に対する13年度の実績について、現在、とりまとめを行っているが、暫定版として現状をご報告する。

1. 産業事故の発生状況

13年の事故件数は、昨年とほぼ同じ29件であり、CCPS法のポイントでは28件が10ポイント未満、1件が10ポイントであった。また、平均ポイントは1.0であった。

なお、10ポイントの事故は、弁が腐食して穴があき、周囲にいた3名が被液したものである。

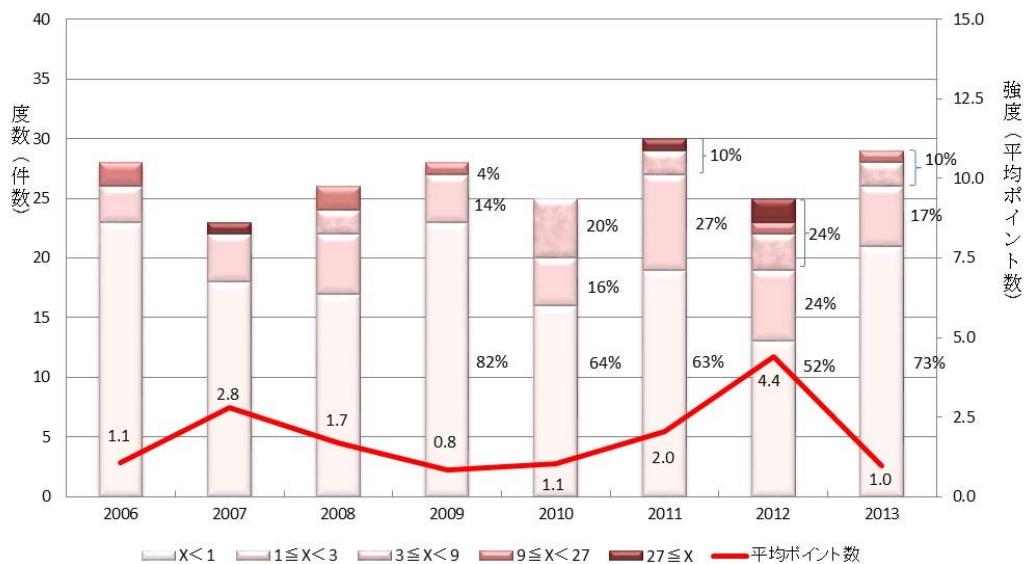


図1 事故規模別の件数推移（暫定版）

2. 業界団体が実施する取組み

協会として、「経営層の保安に対する強い関与」に加え、安全文化を構成する8軸のうちの「学習伝承」と「動機づけ」について取り組んでいる。

また、重大事故の解析から得られた3つの課題（リスクアセスメント、情報の活用、Know-Whyの伝承）については、「学習伝承」の中で取り組みを行っている。

(1) 経営層の保安に対する強い関与

1) 第1回保安トップセミナー

開催；2013年11月

出席者；石油化学工業協会会員企業の社長

内容；「The Executive Role^{*)}」（社長の役割）を視聴

2014年度に石油化学工業協会において安全メッセージのビデオ作成を行うこととなった

*) アメリカの化学プロセス安全センター（C C P S）が作成した、デュポン、エクソンモービルケミカル、アルベマーレ（アルキルアルミ）など世界的な化学企業のトップがプロセス安全への取り組みについて語るインタビュービデオ

2) 第2回保安トップセミナー

開催；2014年5月予定

出席者；石油化学工業協会会員企業の社長

内容；学識経験者による講演会（予定）

(2) 安全文化の醸成

1) 学習伝承

ア) 事故情報の共有化

13年に会員事業所で発生した29件について、メール、会議体等で事故発生の状況、原因、対策などを共有化し、情報の活用を図っている。更に、C C P S法で定量的に評価し、傾向管理を行っている（図1参照）。

イ) 経験の共有化

第9回事事故例巡回セミナーを7月30日に四日市地区で、第10回を1月30日に岩国地区で開催した。

ウ) 保安の取組み共有化

①保安推進会議

第31回保安推進会議を10月10日に開催、6社が自社の保安向上への取り組みに関して発表を行った。関係の省庁、学会等の来賓30名などを含む約240名の参加を得た。

②保安研究会

現場管理者が保安に関する取り組みの情報交換を行う7つの保安研究会が18回開催され、延べ400名が参加した（5月末までの予定含む）。当保安研究会では、技術（Know-Why）伝承、設備信頼性向上などの情報交換に加え、重大事故を題材にした討論型演習を行い、リスクアセスメントを行うための危険認識能力の向上を図っている。

2) 動機付け

第5回保安表彰として、地道に保安活動に従事し、優秀な安全成績を上げた現場の職長クラス15名の表彰を10月10日に行った。

3. 自然災害による産業事故の発生に向けた取組み

2013年は、高圧ガス設備の耐震性にかかる情報交換、エンジ会社による説明会など、延べ11回の会議を開催し、情報交換を行った。

4. 行動計画の取扱い

現在、石油化学工業協会では、行動計画の2013年度の実績についてとりまとめを行っている最中である（7月完成予定）。これらのとりまとめに基づき、必要に応じて14年度の行動計画として見直しを行う予定である。

なお、とりまとめ及び見直しについては完成後に、産業構造審議会等に報告するとともに、ホームページ等に公表する予定である。

「第31回保安推進会議 当日の様子（2013年10月10日）」



以上